

ジャグパル

JugPal

2000年12月1日 第10号



サイバーインタビュー

[Mr.Dai さん]

今回はディアボロでお馴染みの Mr.Dai さんです。
バンダイのイベント等で華麗なディアブロ(バンダイではディアブロ)を披露し、私の息子もイベントで教えていただいたことがあります。正直少々ぶっきらぼうな第一印象があったけれど、実際は笑顔の優しいお兄さんといった感じでした。幾つか質問をしてそれに電子メールで答えていただくという『サイバーインタビュー』という形をとり、回答をいただきました。

Q: 普段はどのような活動をされているのでしょうか。
またどこに行けばMr.Daiさんのディアボロを観ることが出来るのでしょうか。

A: 普段はストリートパフォーマーとして都内某所でディアボロやマジックなどのパフォーマンスをして生活してます。

Q: ディアボロのアーティストで好きな人はいらっしゃいますか。

A: いません。

Q: グローランプで発光するタイプや発光体を内蔵したタイプなどを使い、暗転下のステージ上で神秘的なディアボロを披露していただけますが、個人的にはとても大好きな演目です。ディアボロにはその他にファイヤータイプもありますが、どんなタイプのものが好きですか。

A: ブラックライトを使うやつが好きです。
あと、ファイヤータイプも好きです。外でやる時はだいたい使ってます。

Q: 後進の指導も熱心にされているようですが、これからディアボロを始める人に何かアドバイス(あるいはコメント)をいただけますか。

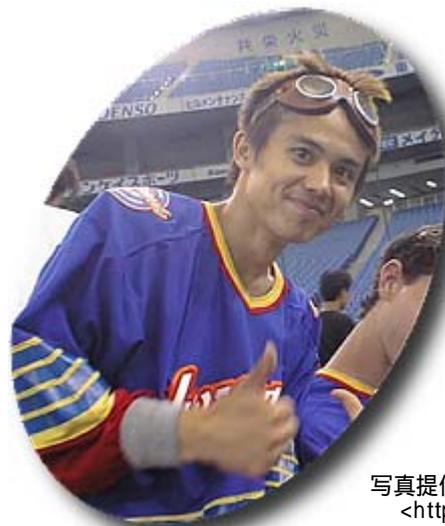
A: diabolotって奥は深いけど、誰でも簡単にはじめられて、ただ投げてとるだけでも楽しめるので、もっと沢山の人がやってほしいです。

Q: ディアブロ以外のジャグリングはなさらないのでしょうか。

A: 他のジャグリングもだいたい物はやります。

Q: (しょうもない質問ですが、)ディアボロをいくつお持ちですか。

A: 40個位もってます。



写真提供: ディアリズム
<<http://www.diarhythm.com>>

Q: 10月12日にplanBで「Dai丸百貨店ソロライブ」という公演を「丸ちゃん」と組んで行われ、私自身ジャグリングがもう少し出てくるのかと思っていましたが、お二人のコントが中心でしたね。今後新しい芸域に挑戦していく意気込みが感じられましたが、具体的にはMr.Daiさんとしては目標がありますか。どんなことをやっていきたいのでしょうか。

A: 基本的には笑えるものが好きなのですが、ジャンルにとらわれなくて、これから変わった新しい事をやる予定です。今はまだ言えませんが、来年たのしみにしていただきます。
また、今年いっぱい僕と丸ちゃんで行っていた「Dai丸百貨店」はなくなります。
いままで応援してくださったみなさん、ありがとうございました。

[Mr.Dai <dai@bird.zero.ad.jp>]



サイバー対談

【良いショーを創ろう！】

はじめに:

石川さんに「ジャグパルに何か書いてネ」とおねだりしたら、以下の原稿をいただきました。
良いショーは演者と観客の(今風に言うと)"コラボレーション"により創られる、といった内容で、興味あるテーマなのでしばし電子メールで意見交換させていただきましたので、併せてその内容を紹介します。
名付けて『サイバー対談: 良いショーを創ろう！』

皆さんも一度は人から物事を教わったり、また人に教えたりした経験があるのではないのでしょうか？

私がカルチャーセンターでジャグリングを教え始めて、2年が過ぎようとしています。そこで感じたことは、「教えやすい受講生の存在」ということです。もちろん教える側も教わる側もお互いに良い先生、良い受講生になるように努力はしているし、他の受講生が教えにくいという訳ではないのですが、その人が特に礼儀正しく、熱心に質問や練習している姿を見ると、ついつい余計に教えたくなくなったりします。

これを「演者」と「観客」に当てはめてみると、芸を演じる側は毎回「良いショーを」と思っています。しかし、演者だけでは「良いショー」を創り上げるのは不可能です。だからこそショーの時、お互いが良いパフォーマー、良いお客さんになろうと努力することにより、その場がより良い雰囲気になるのではないのでしょうか。観客の「良いショーを観たい!」という気持ちと、演者の「良いショーをしたい!」という両方の気持ちがあって、初めて「良いショー」が生まれるのです。

両方の気持ちがあれば、多少場所が狭かったり、暗かったり、うるさかったり、天気が悪かったりしても、その場所・環境でのベストのパフォーマンスが観られるでしょう。良い観客になることは特に難しいことではありません。ゴミを捨てない、ちょろちょろする子供を座らせる、ビデオばかり撮らないで手を叩く、など簡単なことからよいのです。

皆さんも今度誰かのショーを見る機会があれば、是非「良い観客」に率先してなってみては如何でしょうか。二度三度見たパフォーマーも「良いショー」の時は、きっと今までやらなかったようなことをやってくれるはずですよ。

[プロジャグラー/東急セミナーBE(渋谷校,雪谷大塚校)講師:石川 健三郎 <kenchan2@gol.com>]

安部:

演者としてはほとんど活動していないので、観客の立場からお話させていただきたいと思います。ケンちゃんも色々なところで公演していますが、ショーといっても様々な環境が考えられますよね。

例えば路上公演(大道芸やイベント)と劇場公演で考えると、劇場の場合は明らかに観客はそれ自体を目的に観に来ているけれど、路上公演の場合は、他の目的があってたまたま立ち寄ったというような客がほとんどでしょうから、観客の質自体違うと思うのですが。

石川:

今回は、劇場での公演ではなく、路上やイベントでの無料のショーのことを考えたいと思います。

安部:

ケンちゃんの仰られる「良い観客」についてですが、「客がよくなきゃ芸人は育ちません」、「芸人は客によって育てられるのです」といった言葉を芸能関係の本で目にしたり、寄席に行ったりすると噺家の口から聞くことがあります。それもしいば、

そうだよなあ、そういう意味じゃあ、最近は芸人が育つような客が少なくなったのかもしれない…なんてことを考える反面、いや待てよプロだったら観客の動静を見て取りその場の空気を十分把握して、己の経験と技量の全てを動員して観客を自分の懐に入れなくてはならないのではないのか。

観客をコントロールできなくてプロと言えるのか…なんてことも考えたりします。

石川:

「客が芸人を育てる」ですが、これはどうかと思います。と言うのも僕は芸人はお客がいなくても育つと思います。

要は自分自身が「成長したい」とか「もっと上に」とかの向上心があればお客さん(だけ)が芸人を育てるものではないと思います。お客も確かに大切ですが、それは芸を上達させるための一つの要素にし過ぎません。

安部:

「客が芸人を育てる」というのは別の意味で客にもの凄いことを要求しているような気がします。何を対象に考えても良いのですけれど"育てる"って作業はもの凄い労力を伴いますし、責任をも要求されます。

つまりこの言葉は、観客サイドも芸について十分勉強なさい、と言っているともとれるのですが、普通の観客はごくごく普通に楽しい時間を過ごしたいから公演に足を運ぶのであって、そんなこと言われたら尻込みしちゃうか、ましてやたまたま路上でショーを見ている人なんかは、そんなこと知ったこっちゃねえよ、と開き直っちゃうでしょう。

石川:

確かにそうです。しかし、「お客が芸人を育てる」という意味は「積極的に育てる」と言う側面からしか考えるのではなく、厳しい目を持ったお客以外にも、なんのリアクションもないお客からでも、十分勉強できるということです。

それは芸人側の問題です。例えば、「何でお客さんは笑わないのだろう?」とか「何で拍手してくれないのだろう?」と感じたとき、「今日の客はシケてる」とお客側のせいにするのか、または「自分の腕が未熟だから、客にうけないんだ」と自分のせいにするのかで、随分と違ってきます。

積極的に「芸人を育てよう」と思わなくても、素直にその芸に反応していれば、それこそが「芸人を育てている」ことになるのでしょう。要は芸人の気持ち次第です。

それと「良い観客」についてですが、プラスにはなくてもマイナスにもならない客、つまりゼロのお客が芸人にとっては「良い観客」です。もしプラスになるのならそのお客は「良い観客」を通り越して、「もの凄く良い観客」なのでしょう。

安部:

なるほど。その定義でいくと私も良い客に入りそうなので安心しました。

さて、とにもかくにも観客も人間である以上、まさに十人十色でいろいろな人がいます。ほとんどの人はできれば楽しい時間を過ごしたいと思っずし、若い人は特にパフォーマンスの見方も慣れてきたといった感じで、それほど目立った困り者はあまり見かけないような気がします。

そうは言っても、世の中いろいろな人がいて、単に失敗を喜んでいるレベルだったら良いけれど、積極的に邪魔をしたりするような人っていませんか。ヤジを飛ばす人もそうですが、自分の子供がチョコチョコ歩き回ったり、道具を触ったりと明らかにその場を壊しているのに何ら行動を起こさない親もこういった人に当たると思います。

こういった輩には何を言っても無駄だと思うのですが、そんな経験はありますか。そういった時はどうしているのですか。

石川:

僕の場合、子供が小学校入る前や1,2年生くらいだと、まだそれ程気にしません。ただ道具を触られるのは注意します。小学校の高学年になると、ちょろちょろと悪ふざけをしているのが、観客にとって可愛く見えないので、きちんと注意します。

もしくは子供達の中に、「見えない」とか「がんばれ」とかの良い声を聞くようにして、こっちは「そこにいると見えないってさ」とか「がんばれ?ありがとー!」とかオウム返しをします。すると、他の子供達もお行儀が良くなったりするときもあります。

が、ならない時もあります。でも、足長みたいに大げかに繋がる芸は一時中断して、きちんと注意します。

これはなるべく避けたいのですが、どうしようもない時には、仕方がないのではないでしょう。積極的に邪魔するような人の声や行動は、なるべく無視します。

多分、パフォーマーが「さっきからこいつうるさいなあ」と感じる人は、他の観客も同じように感じているのではないのでしょうか？無視すること。人間って反応がないとやじったりしても張り合いが無いとやめる場合もありますが、やめない場合もあります。

タイミングの悪いヤジや笑えないヤジなんかで、その場の空気が一瞬引いた時に、「がんばれ！」と他のお客さんからの声があったりすると、またその場が盛り上がったりします。タイミングの悪いヤジなどに答えても良いのですが、これをやるとそのヤジった人は調子に乗って、またタイミングの悪いヤジを言ったりするんですよね。

その処理に終始する姿を見せるのが仕事ではないし、お客さんもそれを望んではいないと思います。

安部:

きっと読者の皆さんの中でパフォーマンスをする人がいらっしやるでしょうが、ケンちゃんの『皆さんの「良いショーを観たい！」という気持ちと、演者の「良いショーをしたい！」という両方の気持ちがあって、初めて「良いショー」が生まれる可能性が出てくるのです。』という言葉には大いにうなずく人がいらっしやると思います。

観客の受け入れる心と演者の表現欲との波長がうまく重なった時に、感動が生まれるのでしょうかね。

石川:

そうです。ここで言いたいのは、ジャグリングに接している人たちや人前でやることのある人たちに言いたいのです。

一度でもそう言う経験をしたことがある人なら、引いた目で見ないで、その場を盛り上げよう！という気持ちで見るのが大切だ！ということが言いたいのです。盛り上げるのを忘れて、その芸人や芸をパフォーマンス最中に分析するのはどうか？と思うのです。分析するのは終わってからでもできます。

また、例えは分かりにくいかもしれませんが、人間関係には上下があるときがあります。例えば、先生と生徒。上司と部下。親と子。・・・など、そんな上下関係があるときにどちらかが一步譲ればその場がスムーズに運ぶことがあるでしょう。

その一步譲るのがあなた(自分)になってみてはどうでしょうか？(教わる側でも教える側でも一步譲ろう！)と言いたいのですが・・・。

安部:

つまりそれはちょっとした心づかいが、演者と観客との間の潤滑油みたいな働きをして、お互いの気持ちがいよいよ通じ合うようになって、その結果相乗効果としてよりよいパフォーマンスが生まれる。

ひいてはそれが観客にとってもメリットとなって跳ね返ってくるわけで、今までの話は「パフォーマンスを100倍楽しむ方法」に置き換えられるかもしれませんね。

石川:

「パフォーマンスを100倍楽しむ方法」とも言えますが、自分の人生の中に積極的に取り入れても欲しいです。

電車の中で座席を譲ったり、道を譲ったり、落ちているゴミを拾ったり、「誰かやらないかなあ」と思っていること、その「誰か」に自分になってみてはどうでしょうか。

パフォーマンスの最中にうるさい子供などがいたときに「親はいないのか？」「誰か注意しろ」と思ったときって、意外と他の人も気になって、同じようなことを思っていたりするのではないかな？だったらそれを見ている自分がその親の代わりをしたり、その「誰か」になったらどうでしょうか？そうするだけで、その場はぐっと良い雰囲気になります。

勿論パフォーマーもそういった子供を黙らせたり、静かにさせようと努力はしますが、それに終始してしまうと肝心の「芸」の方は当然観せることが出来なくなります。

それと、どこにお行儀の悪いお客に一生懸命になって良いショーを観せたいと思う芸人がいるのでしょうか。

良いショーをしたければ良い芸人になるよう努力をし、良いショーを観たければ良い観客になるといった双方ともに参加者なのだから、お互い相手任せにしないでより良いショーを創っていきましょう。

安部:

何やらパフォーマンスの話から人生訓的な話にもかかってきましたね。「人間である前に芸人であってほしい！」なんて言葉がありますが、ケンちゃんの話から、やはり演者の人間性そのものが個性として芸にあらわれてくるのではないかと思えました。



東洋医学から見るジャグリングのすすめ

【東洋医学から見るジャグリングのすすめ(第一回)】

by MOMONTA

はじめに:

四捨五入すると50歳になる私は時折思います。

(練習しないのを棚に上げて)何故何年やっても上手にならないんだろう？

ジャグリングって何歳まで続けられるんだろう？

時々思い出したように詰めて練習すると腰が痛くなったり、肩が重くなったりと、こりゃやっぱトシ(年齢)のせいかな！？そんな時にこの「東洋医学から見るジャグリングのすすめ」に出会いました。きっと私以外にも興味をもつ方がいらっしゃるだろうと思い、MOMONTAさんに連絡を取りジャグバルへの掲載に関して快諾いただきました。

MOMONTAさん鍼灸師で、部分的なりハビリではなく体、全身のバランスを整える東洋リハビリ研究会の講師でもられます。なおこの東洋リハビリ研究会の中でお年寄りや体の不自由な方々のリハビリにジャグリングを取り入れていらっしゃるとの事です。

では今回から新連載の「東洋医学から見るジャグリングのすすめ」をお楽しみ下さい。

「病は気から」皆さんはこの言葉を聞いてどう思われますか？

"風邪を引きそうになったが、気力で持ちこたえた"とか"大事な仕事で気が張っていたので、その時は平気だったのに終わった途端に気が抜けて倒れてしまった"等、このような経験は誰もが持っている事でしょう。また、西洋医学の分野でも、ウイルスと戦うイメージをするだけで免疫力が上がり、癌などの治療に応用され、効果が出ていることは、科学的にも実証されています。しかし、五十肩や腰痛、変形性膝関節症といった運動機能障害も「病は気から」に当てはまるとしたら……。

おそらく、ほとんどの人が驚かれる事だと思います。結論から言ってしまうと、一部の例外を除くほとんどが体に対する気の配り方をちょっと変えるだけで回復方向に向かうのです。では、一体どの様にして「気の持ち方」が各運動器官に影響するのか？出来るだけ専門用語を省き、ジャグリングの練習に役立つよう説明していきたいと思いますので、皆さんも一緒に考えてみて下さい。

運動性伝導路と意識

運動性と言われてもピンと来ませんが、一般に言われている「病は気から」「気の持ちようで病気が治る」などが自分の意識(脳で思ったこと)を内臓や筋肉に影響させる運動性の意識です。

その道筋(脳から筋肉や内臓へ)が運動性の伝導路となります。

ジャグリングで言うと、脳で右手のボールを投げようと思えば、その指令が右手の神経を通り、右手の筋肉を動かすという動作の道筋です。

運動性伝導路の特徴

運動性伝導路は自分(脳)で思った事を筋肉に伝える訳ですから、強く思えば思うほど、スポーツではより大きな力が出せたり、免疫力や内臓の力を上げ、病気が治ったりします。

ジャグリングで言えば、技を覚える前の初期段階で必要となる意識です。

カスケードという技を覚えようとしたとき、まだ出来ないけれど、とりあえずカスケードの動きをイメージして、ギクシャク緊張を伴いながら練習していきます。そして時が経つにつれて脳でカスケードの動きをしようとした指令がスムーズに腕や手に伝わるようになりますと、カスケードが出来るようになるわけです。この時、カスケードという技の運動性伝導路が完成したと言えます。一度出来てしまえば、反復練習により伝導路の通りが良くなり、スムーズに指令が伝わるようになります。

ジャグルポイント

運動性伝導路は脳から手へ(伝わる方向から別名、遠心性伝導路と呼ばれている)

技を早く覚えるのに必要で、強く思うことで鍛えられる。

筋緊張を伴い、ギクシャクした動きになる。

§ 次回予告 §

今回は運動性伝導路だけにしておきますが、実は次回こそ、上手な人と下手な人の決定的な差が出るもう一つの伝導路、感覚性(求心性)伝導路についての説明です。

運動性伝導路を多く使っている人は、一所懸命さは伝わって来ますが、緊張を伴いますので、動きが堅く、技も汚く見えます。又、筋肉への負担も大きく、体の使い方によっては様々な運動器疾患を引き起こします。若いうちは体力もあり、回復も早いので多少運動性優位に偏っていても事故は起きませんが、このような動作の仕方を続けていると、慢性的な筋や腱の緊張により関節の隙間が狭くなり、中年になった頃には体はガチガチ、棚の上の物を取ろうとしたら五十肩、落とした財布を拾おうとしたらギクシャク腰！……そんな体になっている事でしょう。よく五十肩やギクシャク腰は「一度やるとクセになる」と言われています。しかし、よく考えてみて下さい。

それはその人が長年体を固まらせるような運動の仕方を続けてきた結果、何げない日常生活動作ですら耐えられない体になってしまった訳で、五十肩や腰痛がクセになっているのではありません。緊張を伴いながら動くという体の使い方がクセになっているのです。それに気づかず年を重ね、あっちが治れば今度はこっち、と病院通いをしている年配の方が何と多いことか…。そうならないために、柔軟な体になる様な練習をしたいですね。

『ジャグパル』読者の皆様へ：

この「東洋医学から見るジャグリングのすすめ」は、あくまでジャグリングの初心者のために書かれているものです。従ってプロジャグラーの方や、武道・芸事等により、美しい動き、自然な動きを日々追求し、訓練されている方々が読まれたならば、大した事のない内容に感じられる事でしょう。

私自身、ジャグリング歴も浅く、技術的にも未熟なため、目の肥えた『ジャグパル』読者の皆様に至らない文章を晒すのは、申し訳無く思います。

しかし、現在ジャグリングは今までにない盛り上がりを見せており、一般の方も気軽に楽しめるほど敷居が低くなってあります。そのため指導者のいない小規模のアマチュアサークルや見よう見まねで個人練習をしている入門者の中には、負担のかかる練習の仕方により、体を壊してしまっている方が大勢いらっしゃるようです。

そのような現状は、ジャグリングを治療に応用し、リハビリとして普及させている私にとっても悲しいことです。

ジャグリングは練習の仕方により様々な病気を予防し、治療させる効果も期待できます。

皆様にとって、ジャグリングが生涯続けられる引退のないスポーツとして、また、健康法としても一生の財産になりますようお願いしております。

[MOMONTA]



情報

[ジャグリング教室]

大阪にある「パフォーマー・スタジオ JUGG ART」がジャグリング教室を開講しました。対象者は趣味で楽しもうという人から、プロを目指している方までサポートしてくれるようです。以下に概要を記しますので、詳細は問い合わせ下さい。

問合せ先：

パフォーマー・スタジオ JUGG ART

Tel <06-6790-1610>

Fax <06-6708-3977>

E-mail <jugg@furutakikaku.com>

場所：地下鉄谷町線・長原駅徒歩12分

大阪市営バス・六反西口下車徒歩3分

(駐車場あり)

1. 開講日

毎週火曜日・金曜日(月8回開講)

16:00~18:00 子供クラス(高校生以下)

19:00~21:00 大人クラス(大学生以上)

2. 講師

・火曜日講師「ジャグラー・モーリー」先生

スピーディかつ多彩なバリエーションを持つ実力派。やさしく教えます。

楽しく一緒に練習しましょう！

・金曜日講師「ミス・サリバン」先生

関西一の女性ジャグラー。

本場アメリカ、日本で勉強し現在イベント・TVなどで活躍中！

3. 入会金

¥7,000(消費税別)

ボールジャグリングでも、上手な方ほど力が抜けているのに正確で滑らかなボールコントロールが出来ます。いくら練習しても技が綺麗にならないあなた！運動性伝導路だけを鍛えていませんか？

運動性と感覚性とは、同じ伝導路でありながら鍛え方が全く違います。

それでは次回をお楽しみに！

4. 会費

・週1回コース

子供 ¥6,000(消費税別) / 月

大人 ¥8,000(消費税別) / 月

(入会時に火曜日・金曜日どちらかに決めていただきます。)

・週2回コース

子供 ¥11,000(消費税別) / 月

大人 ¥15,000(消費税別) / 月

会費は3ヶ月分前納制。

なお、入金後の返金は理由に関わらずいたしません。

5. その他

・経験者は特待制度あり

・ジャグパルを見た方の応募は入会金無料！



『何が見える?』 by 高橋 さとみ <luna@jttk.zaq.ne.jp>

原作品は何と切り絵です！



サークル紹介

このコーナーでは、全国各地のジャグリング・サークルを順次紹介していきます。

今回は『大津ジャグリングクラブ』の紹介です。

また日本ジャグリング協会のジャグリングクラブ紹介のページ<<http://www.juggling.gr.jp/>>にも国内の多くのクラブが紹介されています。

大津ジャグリングクラブ (滋賀)・・・本号
 <http://www.biwa.ne.jp/~torisan/fr_juggling.htm>
 ジャグリングクラブ tossLife (東京都)・・・9号
 <<http://www1.linkclub.or.jp/~swing9th/tossLife/>>
 大阪大学ジャグリングサークル Patio (大阪)・・・8号
 <<http://patio.wo.to/>>
 京都大道芸倶楽部 Juggling Donuts (京都)・・・7号
 <<http://juggling-donuts.org>>
 福岡ジャグリングクラブ FJC (福岡)・・・6号
 <<http://zodiac30.cse.kyutech.ac.jp/~ooshige/Juggling/>>
 筑波大学附属駒場中学・高等学校ジャグリング同好会
 筑駒Jugglers (東京)・・・5号
 <<http://www.geocities.co.jp/Berkeley/1242/>>
 所沢ジャグリングクラブ JUGFLY (埼玉)・・・4号
 <http://www2c.aimet.ne.jp/~ichiro_t/juggling/jugfly/>
 綾瀬ジャグラーズミーティング JAM (神奈川)・・・3号
 <<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Sumire/9108/>>
 ジャグリングクラブ マラバリスタ (東京)・・・2号
 <<http://user.ecc.u-tokyo.ac.jp/~g940656/index.html>>
 ジャグリングサークル JUG (大阪)・・・1号
 札幌ジャグリングクラブ (北海道)
 <<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Sumire/2690/>>
 北里大学獣医畜産学部ジャグリングクラブ(青森)
 <<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Labo/5397/>>

ジャグリング友の会 (東京都)
 <<http://www.hi-ro.com/~sin/>>
 立教大学パフォーマンスサークルどりいむ・ぼっくす
 <<http://www.rikkyo.ne.jp/~00ia007t/doribo.htm>>
 小平ジャグリング倶楽部
 <<http://www.mailhost.net/~masaki/kjc/>>
 横浜大道芸倶楽部 YDC (神奈川)
 <<http://www.01.246.ne.jp/~yuji-k/>>
 市原ジャグリングサークル JugJug (千葉)
 <<http://www3.plala.or.jp/jugjug/>>
 千葉大ジャグリングサークル ポッサム
 <<http://www.sakurasoft.co.jp/~possum/>>
 千葉東高校ジャグリング同好会
 <<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Cafe/9745/>>
 静岡大道芸サークル WAPS (静岡)
 <<http://www.bekkoame.ne.jp/~ro/tomi/waps/>>
 New Japan Juggling Club (愛知)
 <<http://www.cc.utah.edu/~nhf13960/craig/home.html>>
 金沢大学ジャグリング & マジックサークル JMC
 <<http://www3.et.tiki.ne.jp/~conan2000/>>
 福井ジャグリングチーム FJT (福井)
 <<http://bishop.fuis.fukui-u.ac.jp/~nishio/fjt/>>

【大津ジャグリングクラブ】

1997年に大津市主催の大道芸スクール全6回に参加し終了した何名かが定期的に練習しようと翌年数名が集まってできたのが大津ジャグリングクラブです。

全国的に見るとジャグリングのサークルは結構若い方の集まりが多いようですが、当クラブは最近になって少し若い人が増えましたが(といっても2~3人)どちらかというとおじさんおばさん(わたしもおじさん)が中心の小学生から60代までの20人くらい。

大津市立生涯学習センターと石山市民センターの2箇所第2金曜と第4金曜(来年から変更になるかも)18時半から21時に練習をしています。

しばしば練習の手が止まりジャグリングや大道芸の話に花が咲きいつのまにか シャベリングクラブ??なんていう時も結構あります。

年齢層にとらわれずある人はプロをめざし、ある人はダイエットの為に、ある人は運動不足の解消に、ある人はボケ防止にとその人それぞれの目的に合わせてジャグリングを楽しむ、そして教え合う事で共に上達するそんな雰囲気を大切にしています。



練習参加大歓迎！見学、冷やかしもOK。

たまたま滋賀に来ました！って方も一度連絡いただきましたら、ひょっとしたら練習日かもしれせん。

部員一同お待ちしております！

[鳥本 正一 <torisan@mx.biwa.ne.jp>]



教材紹介

はじめに:

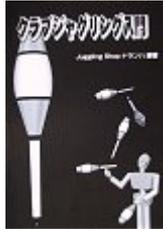
ジャグリングを習得するのに欠かせないのは教本やビデオなどの教材でしょう。英語による教材はそれこそ多数ありますが、日本語による教材って現時点でどの位あるのでしょうか。知っている範囲でまとめてみましたが、あまりないので少々寂しいですね。私が一番印象に残っているのは、雑誌ですが、「科学朝日(1994年5月号/朝日新聞社)」でした。「大道数学者ピーター・フランクルのすべて」という特集が生まれ、その中で6ページにわたり3ボールの投げ方とサイトスワップの解説が詳細にされているのを見て、何となくジャグリングブームの到来を感じ、と同時に日本語による教本が出てくるのはいつ頃かなあと思ったりもしました。ここで対象はボール、クラブ、シガーボックス、ディアブロ、デビルスティック、ハットとしましたが、デビルスティックとハットに関しては教材は見あたりません。これらを含めて日本語による教材に関して情報をお持ちの方は教えていただけますか。



[安部]

【クラブジャグリング入門】

著者: 中嶋潤一郎
発行・発売: Juggling Shop ナランハ
ページ: 83ページ
価格: 1,200円
ISBN: 4-931571-02-6
発行年: 2000年7月1日初版



[目次]

- chapter1 カスケード
- chapter2 クラブ基本技
- chapter3 クラブ基本技
- chapter4 スタート、フィニッシュ、リカバリー
- chapter5 クラブ応用技
- chapter6 クラブパッシング
- chapter7 ナンバース
- chapter8 ゲーム

- ディア・ワン
- ディア・ツー
- ディア・スリー
- アナザー・トリックス
- ツー・ディアプロ・トリックス
- デュオ・トリックス
- オフィシャル・デモンストレーター紹介
- Q&A オール・アバウト・ディアプロ
- 認定制度&イベント情報
- オフィシャル・トリック認定店リスト

【ボールジャグリング入門】

著者: 中嶋潤一郎
発行・発売: Juggling Shop ナランハ
ページ: 79ページ
価格: 1,200円
発行年: 1999年4月1日初版



[目次]

- はじめに
- 1章 3つボールでお手玉
- 2章 3つボールの基本技
- 3章 2人でジャグリング
- 4章 3つボールの応用技
- 5章 スタートとフィニッシュ
- 6章 4つボール
- 7章 5つボールへの道

【ジャグリングではじめる驚異の能力開発】

著者: マイケル・J・ゲルズ、トニー・ブザン
発行: 翔泳社
ページ: 222ページ
価格: 1,553円
ISBN: 4-88135-221-0
発行年: 1995年4月10日

[目次]

- 第1部 冒険の始まり
 - 1章 メタファー(隠喩)としてのジャグリング
 - 2章 ジャグリングをマスターする
- 第2部 完璧な練習をめざして
 - 3章 「浸透」の原理を活かしてマスターする
 - 4章 成功としての失敗 - 失敗を愛することができるように -
 - 5章 古い習慣と新しい習慣
 - 6章 リラックスしながら集中する技術
 - 7章 極めつけのコーチになること
- 第3部 無限のかなたに
 - 8章 無限のかなたに
 - 9章 無限の可能性
 - 10章 スーパーベビー - 遊びのパワー -



【シガーボックス パーフェクトガイド】

著者: 中嶋潤一郎
発行・発売: Juggling Shop ナランハ
ページ: 56ページ
価格: 1,200円
発行年: 1999年6月1日初版



[目次]

- はじめに
- 道具について
- 図の説明について
- 1章 持ち方と姿勢
- 2章 技
- 3章 バランス技
- 終わりに

- 付録
- 無限への道のり - ジャグリングの段位 -
- ジャグリング・メタファー・メソッド(簡略版)
- 用語解説
- 参考文献
- 著者について

[ひとこと]

本書のテーマは学習の方法を身につけるにはどうしたらよいのか、ひいては能力開発をどうやっていくのかといったことで、単なるジャグリングのハウトゥ本ではありません。つまりジャグリングをひとつの題材として、習得過程で得られた学習法は人生のどの分野において何を学ぶときにも応用できるということを能力開発法の観点から記述しています。従ってもちろんジャグリングの練習方法も詳しく書かれてあります。

【ハイパーディアブロ オフィシャル・ガイド】

監修・協力: 株式会社バンダイ
発行: 小学館
ページ: 71ページ
価格: 838円
ISBN: 4-09-102694-X
発行年: 1999年5月20日初版



[目次]

- ハイパーディアブロ オフィシャル・カタログ
- ハウ・トゥー・スタート
- プレイ時の注意事項
- トリック紹介

【ボールジャグリング・テクニカルビデオ】

出演: 中嶋潤一郎
製作・著作・販売: Juggling Shop ナランハ
価格: 2,980円
発行年: 2000年

[内容]

- Section1 カスケード
- Section2 3つボール基本技
- Section3 3つボール応用技
- Section4 ナンバース





アート見物記

【最近の泣き】

サルティンバンコ "Saltimbanco"

既に4回観てきましたが、何回でも楽しめます。前回のサルティンバンコの日本公演は1994年の春で、6年ぶりではありましたがその完成度の高さには、そしてそれが維持どころか向上しているということに驚かされます。

舞台、照明、音楽そしてもちろん演技においても、とにかく全てにおいて神経が行き渡っていて、このプログラムのみならずシルクドソレイユには「妥協」は一切無く、気持ち良いほどに観客を巧みにリードして酔わせてくれます。

"Mystere" や "O" 等のような専用劇場でのプログラムも素晴らしいのですが、こういったツアープログラムも良いものです。(とは言うものの "O" は観たことがないので是非観たい!) 恐らくサーカスのリングとほぼ同じ大きさであろうステージはこちんまりとして見やすいし、何よりもパフォーマンスの核である驚き、笑い、スリル、ハプニングといった原石を磨きに磨き上げ見事に光り輝いています。

演目は同じでも出演者が変化していく中で、そういった輝きを失うことなく長年同じプログラムが支持されているというのは考えてみれば凄いことです。ただし絵画や彫刻や音楽は残すことができますが、「サルティンバンコ」という作品は「今」しかないというかなさも存在します。だからこそ足を運んで観に行かなくては。

さてのMaria Chooduさんのジャグリングですが、先代(って言い方変か!?) のMiguel Herreraさんとの演技を比べてみるとルーティン自体はほぼ同じですが、そんなことは全く気にならずに存分に楽しめます。

ミスは全く無し、完璧!! 3ボールから4つ、5つ、6つへと徐々に数が増えると共に観客のボルテージも上がり、私も体の中から熱いものが噴き上がってくるのを確かに感じます。

7ボールのトス、そして7ボールのバウンスがフィニッシュし、タッタッタとリズムをとって前にかがめた体を起こし、笑顔と共にポーズを決めた時に最高潮に達した観客から沸き上がる歓声と拍手に背筋がゾクッとします。…こんなシーンに出くわすと、眼がウルウルになってしまいます。

2000年10月12日～2001年1月28日:東京
2001年2月9日～2001年4月8日:福岡
2001年4月20日～2001年6月10日:名古屋
2001年6月21日～2001年9月9日:大阪
2001年9月20日～2001年11月18日:横浜

リバーダンス "Riverdance"

1999年に初来日し、観たい観たいと思っていたリバーダンスが今年もやってきました。く～っ、オープニングのダンスシーンで感動して早くもウルウル状態。

40人ほどのアイリッシュダンサーの一糸乱れぬ脚の動きによるタップから発せられる力強いリズムは心を揺さぶり、凄いと、凄いと、どんどん興奮していきます。興奮が極に達した時、バックの演奏と共にダンサーの動きが寸分の狂いもなくピタッと止み、一瞬の静寂(間)が会場を支配し、その瞬間スッと血の気が引き、文字通り鳥肌が立つのを感じます。そしてウォ～という爆音のような歓声と拍手と共に静けさがうち砕かれ、その後はしばし涙、涙、涙。

またとても面白かったのはアイリッシュダンスとフラメンコ、そしてアイリッシュダンスとタップダンスの競演です。ダンスという文化をベースにお互いを認めつつも、お互いの個を見事に主張しあっている様を観ていてなんだか懐かしい気分におそわれました。

そうそれは学生の頃、暇に任せて聴きまくったブルーノートをはじめとする、いわゆる"モダンジャズ"を聴いているような気持ちになったのです。奏者同士の丁々発止のやりとりを繰り広げる様は、スリリングで本当に泣けました。(オイオイその頃から泣きっぱなしかよ)

11月19日～11月29日:東京
12月2日～12月4日:福岡
12月8日～12月10日:名古屋
12月14日～12月17日:大阪

[安部 保範 <abesan@dreamcom>]

今回(第9号)の内容はバラエティーに富んでいて、楽しく読めました。気に入ったのは徳重さんの記事と西川さんの記事。それとビデオやCD-ROMの紹介でした。徳重さんの記事は海外のジャグリング事情がわかり、西川さんの記事は最近僕がよく思うことだったりしたので、身近に感じました。

[プロパフォーマー: 匿名希望]



読者コーナー

いつもジャグバルをお送りいただき、ありがとうございます。シガーボックスの余分ができましたので、紙上で紹介していただけますか。日本人向けに設計された、少し小さめのシガーボックスで、1セットが¥12,000-です。アメリカのペンデッカーのものです。

[プロパフォーマー: ブッチリード]

Email: kinkitheatre@gin.or.jp / tel&fax: 06-6864-3916]

ジャグバルは私という一人が野次馬根性丸出しで、単なる趣味として発行しているもので、特定の企業、団体あるいはパフォーマー個人には一切関係していません。

ジャグバルはWeb上でも見られます。(Webだと写真等はカラーです)紙での郵送が不必要な方はご連絡ください。

WebSiteジャグバル: <<http://homepage1.nifty.com/abesan/>>

編集発行人: 安部保範

住所: 横浜市栄区公田町424-9 (〒247-0014)

E-mail: abesan@dreamcom Nifty: QGB02014

WebSite見世物広場: <<http://plaza4.mbn.or.jp/~chansuke/>>



『クリスマスプレゼント』
by 安部 侑子